2017年06月号

しかけのあるブックデザイン

グラフィック社編集部 編　グラフィック社　2007

『しかけのあるブックデザイン』
グラフィック社編集部編　グラフィック社　2007

本を読んでいると、表紙や、帯、カバー、本のデザインがちょっと変わった本ってないですか？でこぼこしていたり、形がかわっていたり、本一冊一冊によっていろんな装丁、デザイン、ブックデザインがされていることにみんな気づいていますか？わたしはそういう本に出会うとわくわくしてうれしくなっちゃいます！なんだか秘密を知ったような･･･得したような♪そしてその本がより好きになります。なので、本にしてもマンガにしてもわたしは絶対に表紙の裏側や、質感、本の細部までしっかり見てしまいます。そんなすこし変わったデザインをしている本ばかりをあつめた本がこちら『しかけのあるブックデザイン』です。ブックデザインは、本をつくるデザインナーがその本の内容や世界観にあうようにデザインしたものです。作品の魅力をデザインや装丁でさらに大きくする、魔法使いですね！例えば･･･*『ユージニア』恩田陸著 角川書店 2008* は表紙を開くと、サイズ違いの本文用紙が挟み込まれているんだそうです。これは作品に登場する“書物に挟み込まれた紙切れ”を暗示しています。また、句読点の位置をずらしたり、読者にどこか変だなという感情をもたせるのも作品の世界観を盛り上げています。松蔭には、この本が文庫本となって入っています。残念ながら文庫本には、このしかけはないんです。ただ、この文庫版もちょっとしたしかけが･･･。表紙の題字をみてください。タイトルと著者の字のフォント、これ実は同じ大きさのフォントなんです！著者の字のフォントのほうが大きく見えませんか？ここにも読者にどこか変だなと思わせる工夫のひとつです。**『BROOCH』内田也哉子文 渡邊良重絵 リトルモア 2004**は、なかのページがすべて半透明の特殊な紙になっています。実際ページに触れてみたらわかると思いますが、トレーシングペーパーのような薄い薄い紙です。例えるなら、お家によくある日めくりカレンダーのような紙質です。そう、この本はもともとカレンダーとして描かれたものだったそうです。それをカレンダーとしてだけでは、もったいないということで、本になった作品だそうです。紙が半透明なので、次のページの絵や文がリンクして重なり、とても美しく、綺麗でめくるたびにうごいているような躍動感のあるデザインです。*『毎日が豆腐主義』大久保恵子著 高橋書店 2001*という本、これは特殊な製本がされており、開きがとってもいいんだそうです。この本は料理のレシピ本ですが、料理の本はこんな風に、開きやすい製本をとってあるものが多いんだそうです。あなたも経験があるかもしれませんが、料理をするとき、レシピが載っているページを開いたままにしますよね、そのときに閉じてしまってはこまりますね。そのために開きがいい仕上がりになってるのだそうです。あなたが読んでいる料理本もそうかもしれませんよ、確認してみてね。ほかにも、本の表紙が丸くくりぬかれていて穴になって中身が見えているものや、本の表紙がぬれて字がにじんだようなデザインになっている本、トイレットペーパーに印刷された本、スピン（本のしおりとして本についている糸）が、表紙の髪の毛の色をしていたり･･･どれもその本の世界観にあわせたデザインになっています。きっとこの本に載っている本のデザインやしかけ、本当なの？とたしかめたくなっちゃうと思います。この松蔭の図書館にある本もたくさんのっていますよ。こういった本は、本を図書館にだすときに、ちゃんとそのデザインもみんなに見てもらえるようになるべく工夫して装備をしていますよ。確かめにきませんか？そして梅雨の時期、読書のあいまに本のつくりやデザイン、しっかりじっくりながめてみませんか？

おまけ～もっとブックデザインを見たい人は･･･～
『しかけのあるブックデザイン』にもたくさん登場！
『祖父江慎+コズフィッシュ』祖父江慎著 パイインターナショナル 2016
あのうさこちゃんの絵本や、ムーミンコミックス、さくらももこのエッセイ･･･あなたが読んだこと、手にとったことのある本、実はこの人の装丁だったんです！この本自体の装丁デザインもとっても変わっていてよみごたえのある一冊です！